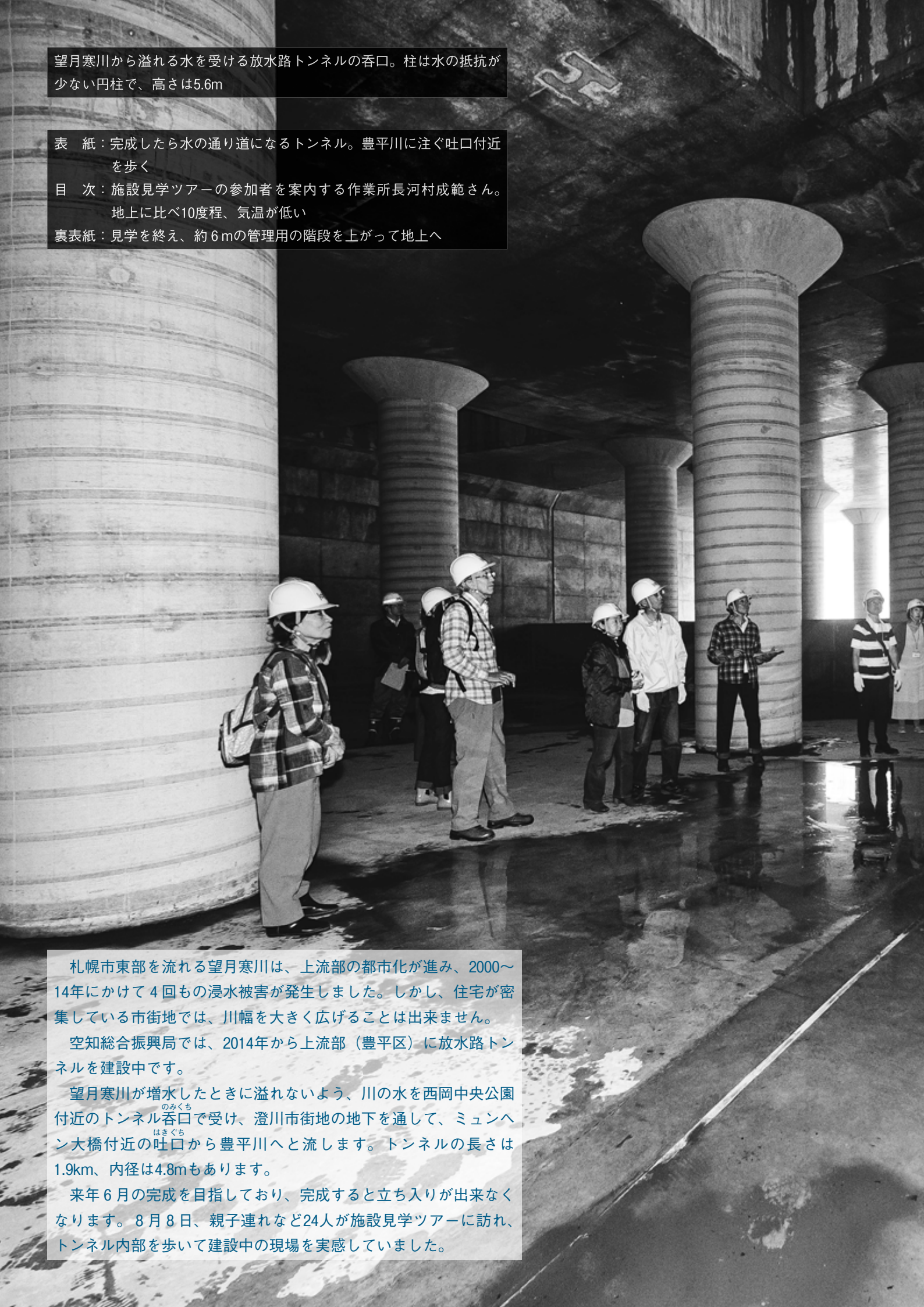




望月寒川から溢れる水を受ける放水路トンネルの呑口。柱は水の抵抗が少ない円柱で、高さは5.6m

表紙：完成したら水の通り道になるトンネル。豊平川に注ぐ吐口付近を歩く

目次：施設見学ツアーの参加者を案内する作業所長河村成範さん。地上に比べ10度程、気温が低い

裏表紙：見学を終え、約6mの管理用の階段を上がって地上へ

札幌市東部を流れる望月寒川は、上流部の都市化が進み、2000～14年にかけて4回もの浸水被害が発生しました。しかし、住宅が密集している市街地では、川幅を大きく広げることは出来ません。

空知総合振興局では、2014年から上流部（豊平区）に放水路トンネルを建設中です。

望月寒川が増水したときに溢れないよう、川の水を西岡中央公園付近のトンネル呑口<sup>のみくち</sup>で受け、澄川市街地の地下を通して、ミュンヘン大橋付近の吐口<sup>はきぐち</sup>から豊平川へと流します。トンネルの長さは1.9km、内径は4.8mもあります。

来年6月の完成を目指しており、完成すると立ち入りが出来なくなります。8月8日、親子連れなど24人が施設見学ツアーに訪れ、トンネル内部を歩いて建設中の現場を実感していました。

も つ き さ む が わ

# 望月寒川 放水路トンネル

# 今だけの地下神殿



## 札幌の治水システム

札幌市内を貫流する豊平川の上流で、豊平峡ダムと定山溪ダムが洪水流を軽減します。市街へ流下した水は堤防で押さえ、石狩川に流します。南西部の手稲方面からの洪水流は、新川で捕捉し日本海へ流します。

中心部の降雨は創成川などで**ばらと**茨戸川へ集め、石狩放水路から日本海へ流します。

市東部（豊平区）の望月寒川では、下流部が住宅密集地で川幅を広げられないため、地下空間を利用した人工の河川、放水路トンネルを建設中です。

提供：鈴木英一氏

## 札幌の治水システム

